



『南瓜』川島 照代画

## 理念

- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

## 運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント(説明・同意・納得)を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。

# ポストコロナと世界情勢、今後の医療

社会医療法人 玄真堂 川崙整形外科病院

院長 川崙 眞之



プーチン大統領が率いるロシア軍がウクライナに侵攻して、1年半近くになります。地球の裏側で起きていることですが、様々なところで日本の私たちにも大きな影響が出てきていることを日々感じます。身近なところでは、まず食料品などの物価や電気代の高騰ですが、円高の影響も相まって、日常生活にも大きな影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

医療においてはご存知の方も多いと思いますが、一般のサービスでいうところの価格は診療報酬制度によつて規定されています。通常、2年おき（西暦の偶数年）に改定が行われますが、財政難と言われる近年の日本においては、改定の度に抑制される傾向にあります。新しい取り組み（最近では地域連携や多職種連携など）を行えば、事実上、減収を免れる仕組みとなつており、医療政策を実現するための手段となつていきます。これらのことは日本の医療環境を改善していくうえでは、一定の役割を果たしていると思えますが、一方で目まぐるしい制度の改定により、膨大な数の書類が増える一方で、日常診療を行う上では大きな負担となつている現状があります。

診療報酬が横ばい、もしくは削減されていく中において、現在の物価上昇は看過できないものとなつてきました。例えば患者さんの給食代ひとつをとつても、価格は規定されているため、調理に伴う原材料費や光熱費、人件費を総合すると、もともと赤字部門であったものが更に悪化している状況です。例えば老健などの介護施設では、価格を自由に設定できるので上昇分を転嫁できるのですが、医療機関ではできない現状があります。このような要因も積み重なり、従来、地域医療を担ってきた有床医院も相次いで無床化・廃院しています。少子高齢化と超高齢社会・独居老人や老々介護の増加、地方の止まらない過疎化の流れの中で地域包括ケアが叫ばれて久しくなります。この地域包括ケアや地域の一次救急を担ってきたのが、そのような医療機関であったと思いますが、現状はどうでしょうか。更には、コロナに対応してきた（できた）一部の医療機関は別として、私共を含め多くの中小の有床医療機関は、それぞれの立ち位置で様々なコロナ対応をしたにもかかわらず、コロナ第7波・第8波では大きな損害を被つたと思われれます。

国連安全保障理事会の常任理事国であるロシアの暴挙を鑑みると、ある意味でウクライナと近い環境にある日本が防衛力を強化することは喫緊の課題ではありますが、その方法や財源は目下のところ不明です。更に少子化対策として国もようやく本腰を入れ始めた感があり、これは評価されるべきこととは思いますが、その財源は社会保障費から捻出することが議論されています。このような未曾有の状況において、従前通りの財源配分で現在の国難を乗り越えることはできるのでしょうか。

経済も踏まえた現在の日本の状況をみると、何か江戸時代末期のような閉塞感を感じてしまっています。多くの志ある若人が散つていった明治維新の再来を望むものではありませんが、まだ国力が残されている今のうちに、この国のあるり方をもつと大きな視野で変革することが、今の日本を生きる私たちに求められているのではないかと思われれます。

# 第96回日本整形外科学会 学術総会に出席して

社会医療法人玄真堂 川島整形外科病院

理事長 川島 真人

この度は、去る5月11日から14日にかけてパシフィコ横浜にて開催された日本整形外科学会学術総会に出席してきた。岡山大学整形外科学教授尾崎敏文会長のもと、「究める―知・仁・術―」のテーマで開催された。これからの医師は、この三つをキーワードとして究めて行く事が重要であり、なかでも「仁」に関しては中津の大江医家史料館に掲げてある中津医学校（1871年創設）の初代校長大江雲澤先生の「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の学問訓を取り上げていた。（図1）この学問訓は、医師たる者、仁術を成すためには先輩の教訓や自らの失敗に学び、医のリスクマネジメントを徹底させ、又同僚や患者さんの声に耳を傾けて、初めて仁術という医療をなす事が出来るという意味である。今日ほどこの言葉が輝いている事は無いという話を会長講演でされていた。

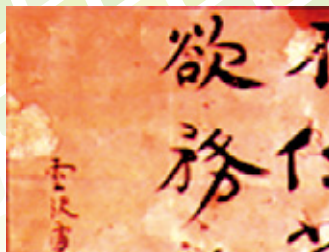


図1. 大江雲澤の医訓



図2. ユスティニアヌス1世

私の発表は教育講演の中で「医学史から見た新型コロナウイルス感染症とパンデミック」というテーマでお話をさせていただいた。2019年12月から始まった新型コロナウイルスの感染症は、世界に於いて7億6千万人が感染し、死亡者は688万人という100年前のスペイン風邪を上回る規模であったが、徐々に収束の方向に向かっている。2023年3月29日現在、日本の感染者は3342万1785人、うち死亡者は7万3747人でインフルエンザ同様になってゆくのかどうか、まだ油断は出来ない。欧米に比べ日本は感染者も死亡者も遙かに少なく、逆に欧米ほど集団免疫による抗体が出来ていないと言う事で、しばらくの間ワクチンを定期的に接種するという事になりそうである。第8波における致死率も、ほぼインフルエンザに近づいており、感染症分類も2類相当から5類相当に移行し、インフルエンザに準じた扱いとなつてき

た。その様な中で改めてこの感染症とパンデミックの事を振り返ってみた。

今回のテーマ「医学史から見た新型コロナウイルス感染症とパンデミック」について、先ず感染症の歴史から見て、死者数が圧倒的に多いのはペストであり、次が天然痘で更にスペイン風邪と言われている。

## ペスト

紀元542年から543年にかけてユスティニアヌス1世治下の東ローマ帝国で流行したペストは「ユスティニアヌスのペスト」と呼ばれ、人口の約半数を失って、帝国は一時機能不全に陥る程であった。（図2）その後、11世紀から13世紀末まで、約200年間にわたって展開された十字軍は、その移動に伴ってペスト菌を媒介するノミとクマネズミから人間に移り伝染させ、イスラム諸国からヨーロッパ中に拡散した事で有名である。ペスト菌はシルクロードのキルギス北西部イシクル湖に定着し、1331年に大流行し、河北省で500万人が死亡するという事態が発生した。このペスト菌はシルクロードを経て、パレスチナ、シリア、ヨーロッパへ拡大感染した。蒙古軍のヨーロッパへの進軍は、現在戦火のクリミアにも及び、1340年代にはカフア城攻略で自軍のペストで病死した兵士を投石機で城内に撃ち込むという悲惨な事が行われて拡散していった。（図3）このペストは14世紀においては黒死病とも言われ、全世界で8500万人、当時のヨーロッパ人口の3分の1から3分の2にあたる2000万人から3000万人前後が死亡したと推定されている。1713年オーストリアでペストが流行し、マリアテレジアの父、カール6世がウィーンに



図3. クリミア戦争で使用された投石器

カールス教会を建立、天井に聖人カール・ホロメウスがペストを鎮める絵をフィシャールフォン・エルラツハ親子に描かせた事で知られている。日本でも聖武天皇によって奈良の大仏が造られた様に、信仰によって人々の精神的動揺を押しさえようとした事は東西変わりなさそうである。19世紀末に至っては中国を起源として1894年の香港での大流行をきっかけに世界中に拡大した。ロベルト・コッホに師事した北里柴三郎は日本政府により香港に調査派遣され、腺ペストの病原菌を共同発見した。（図4）また北里の研究により腺ペストを治す方法として抗血清療法が確立された。更に、長与専斎や福澤諭吉の助けを借りて、1892年には大日本私立衛生会附属傳染病研究所（傳研）を創立した。この様に感染症は、また新たな研究機関が創設されると言うきっかけにもなった。

## 天然痘

天然痘はエジプト第20王朝ラムセス5世（BC1157年埋葬）のミイラの顔に見られる痘瘡のアバタで知られる様に、古くから恐れられたパンデミックをきたす伝染病であった。感染率は30%~50%、死亡率も30%前後で感染率の高い疾患であった。特に16世紀に於いてスペインがインカ帝国に侵入した時に、天然痘



図4. 北里柴三郎

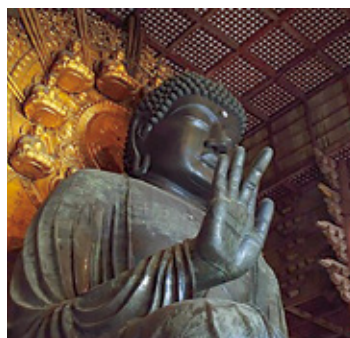


図5. 奈良の大仏(盧舎那仏)

が持ち込まれ、インカ帝国滅亡の原因になった事は既に知られている。日本に於いても奈良時代の735年から737年にかけて発生した天然痘は、ある推計によれば、当時の日本の総人口の30%に当たると約120万人が感染により死亡したとしている。この時に聖武天皇は人々の動揺を抑えるため仏教への帰依を深め、奈良に東大寺を建立し、盧遮那仏像（奈良の大仏）の建造を命じ、その銅は宇佐神宮から提供された。（図5）また、日本各地に国分寺を建立させた。これにより人々の心の動揺を抑えることによりパンニック状態であった国民を鎮めることに成功した。その後も天然痘は流行を繰り返

し、幕末に日本にきたオランダ海軍軍医ポンペは、日本人の3分の1は顔にアバタがあると述べている。イギリスのエドワード・ジェンナーは1796年、牛痘をフィリップス少年に接種し天然痘予防に効果がある事を発見し、1798年には「牛痘の原因及び作用に関する研究」と言う免疫学の先駆的業績を残した。この牛痘はシールボルトも注目して日本に持ち込み、3人の子供に接種したが善感しなかった。しかし、弟子達に種痘の方法が伝えられた。江戸時代中津に於いても天然痘の恐怖は常であり、大新田の白髭神社では藩主が痘瘡退治祈願を行い洗米を痘瘡封じとして配布していた。ワクチンの無い時代に於いて庶民は、源為朝や関羽など強い武士の赤絵を門や玄関に貼る事によって恐るべき疫病から逃れようとしていた。中津藩では1739年、侍医となった初代辛島正庵が長崎で蘭学を学び、5代目正庵（長齢）は長男が6歳で痘瘡により死去した事から、痘瘡の書を集め種痘の研究に務めた。（図6）養子の長徳を岩国の中村一安のもとに送り、池田家に伝わる痘瘡学を学ばせ、同家に伝わる明の戴曼公の『痘瘡唇舌鑑図』の写を入手し、痘瘡の勉強



図6. 智水童子の墓（大法寺）



図7. 痘瘡唇舌鑑図（大江医家史料館）

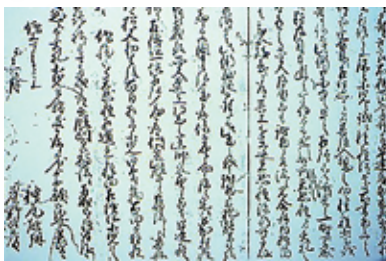


図8. 種痘嘆願書（大江医家史料館）

会をしていた様である。（図7）辛島家からは多数の痘瘡に関する書物が発見されている。7代辛島正庵はヨーロッパから長崎に種痘を持ち込んだ医師オットモーニーニッケに関する情報を得て、中津の10人の医師が子供を連れて長崎の奉行所に出向き種痘を行ったという記録がある。1849年7月の事である。これは日本に於ける最も早い時期の種痘であった。彼らは中津に帰り、藩主に種痘嘆願書を出し中津藩の2千人の子供達に種痘を行っている。（図8）更にこの種痘は近隣の藩にも広がって行った様である。そこで、種痘を行っていた場所を医者への教育に使うため1861年に中津医学館が設立され、福澤諭吉は医書を寄贈し、多くの中津住民がお金や家具等を寄贈した記録がある。この中津医学館は1871年、大江雲澤を校長として中津医学学校となった。（図9）この時の雲澤校長の学問訓が冒頭に述べた「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」であった。この医学学校は後に、付属病院長・藤野玄洋により大分市に病院兼大分医学学校設立建白書が1876年県知事に出され、1880年には大分医学学校が設立され、それが今日の大分県立病院



図9. 大江雲澤（大江医家史料館）

となった。（図10）この様に種痘を究めた熱意が今日まで残っていることに温故創新（古きを研究し、新しいものを創成する）の精神が見受けられる。佐賀藩では藩主鍋島直正（直正）が中津藩と同時期に我が子（淳一郎）に接種し、その様子を絵に描き全国に配布した事から、種痘の意味や安全性が全国的に普及した。大阪では緒方洪庵の適塾を中心に行われた。一方江戸では漢方医の抵抗で9年間遅れ1858年、遂に「神田お玉が池種痘所」が設立された。（図11）漫画家としても有名な手塚治虫は『陽だまりの樹』という長編漫画に、手塚治虫の曾祖父・手塚良仙（良庵）は適塾で福澤諭吉とともに緒方洪庵のもとで蘭学のパイオニア精神を学び、江戸で本格的な種痘を開始したという事を描いた。その後1862年には緒方洪庵を中心に医師の

教育の場となった西洋医学所が創立され、中津から田代基徳が助教となり洪庵を支えた。その後1869年には大学東校、1874年には東京医学部、1877年には東京大学医学部となった。

更に1888年には東京帝国大学医学部となり、日本の医学の学問的な中心となつていった。この様に痘瘡との闘いが新しい教育機関を創設していく事は大分県に於いてもみられるとおりである。天然痘は世界に広がったワクチンによって1980年、WHOジュネーブ総会で天然痘根絶宣言がなされた。多くの医療者の協力によって遂に根絶する事が出来た。しかしながら、現在起きていく温暖化に伴って解けてきたシベリアの永久凍土の中から新種のウイルスが発見されたり、様々な動物を媒介していたパンデミックが今日でも続いている。自然破壊や気候変動が続けば新型コロナウイルスの様な病気が益々増えると言う事を国連も警告している。この様に自然環境と密接に結びついて環境問題に取り組まなければ再びパンデミックが起こると言う事を多くの科学者が指摘するところである。中津出身の蘭学の開祖・前野良沢は、「天地の運行に過不及があることは、其の原因は人為にある。山林を伐り尽くせば烈風が至る。人間が自然界の一部を支配したりすると非常に傲慢になつて自分が独力でした様に思う。自分の力は自然の力の一部と言う謙讓の心が必要である、と説いている。我々は、この様なパンデミックの歴史を振り返る事によって今後の地球のあり方を考えなければならぬというお話が出来た。シールボルトの一番弟子である高野長英は、シールボルト事件によって中津の村上家に潜伏し「最後までやり抜かなければ最初からしない方が



図11. お玉が池種痘所跡



図10. 藤野玄洋（赤間神宮）



図12. 水滴は岩をも穿つ 作成者 渡辺隆美氏と

良い」と述べている。これは群馬県の福田家（上田家）に伝わる「水滴は石をも穿つ。力によらずして、落ちることによって」という学問訓にも共通するもので、学・仁・術を究めるための心のあり方を我々に教えてくれるものである。当院の玄関前には、この学問訓を刻んだ日田の彫刻デザイナー渡辺隆美氏製作による石材彫刻が設置されている。（図12）

# よろしくお願いします

## 新任のご挨拶



脊椎脊髄センター長  
吉田 裕俊

雄大な耶馬溪の大自然と歴史の融合に圧倒され、これから訪れる季節の移ろいを今から楽しみにしております。

この春、『脊椎脊髄センター』の開設に伴い、より多くの地域の皆さまに脊椎医療を提供できるよう4月から赴任しました吉田裕俊です。

これまで10年間、脊椎外科の特別外来として月に一度診療に参りましたが、理事長先生をはじめ職員スタッフが一人ひとりに最善の医療をお届けしたいという熱意を強く感じ受けました。

東京医科歯科大学整形外科に

て、チーム医療を軸とした専門性を高め、知識と技術の向上と発展に主眼をおく教育環境にて、1989年から脊椎脊髄外科を専門に研鑽を積み、手術指導や後進の教育に今まで力を注いでまいりました。

ここ川島整形外科病院では、肩・手・膝・股関節・リウマチなど、専門の医師によるレベルの高い診療がなされている中で、私は脊椎を専門とした頸部疾患や脊椎椎体骨折、椎間板ヘルニアや狭窄症の医療を展開していきます。

頸椎や腰椎に病気があり、痛みや神経痛がなかなか治らなくお困りの方は一度ご相談ください。

患者さまに寄り添い、的確な診断と質の高い診療により中津の患者さまのために貢献したいと考えています。

## 新任のご挨拶



医師 須賀 国広

今年度より川島整形外科病院に赴任いたしました、須賀

国広と申します。幼少期を千葉県浦安市で過ごし、東京医科歯科大学に入学、そのまま母校の整形外科教室に入りました。半年間の派遣の予定で中津に來ましたが、今回が初めての九州での生活となります。生活環境や地域の皆様とのかかわりあい方など、これまでとはいろいろと違うことも多いですが素敵な場所に来れたなと感じています。

環境の違いといえば、台湾国防医学院（NDMC）への留学を思い出します。短い期

間でしたが、気候も言語も制度も違う病院での生活は新鮮な毎日でした。医療スタッフからは手厚くもてなされ、観光の案内もしてもらい何不自由なく過ごせましたが、患者さんに良質な医療を提供することは難しいことでした。

川島整形外科病院では各分野専門の医師、特に整形外科疾患に精通した医療スタッフ、医療体制が充実しています。このような環境で働けることは幸運であり、信頼関係を築きながら患者様の生活をより良いものとするお手伝いをしたいと考えております。

地域の皆様に寄り添える素敵な医療を提供できるように日々精進して参ります。限られた期間ではありますがどうぞよろしくお願ひいたします。

# 新人歓迎BBQを終えて

医療事務部 山田 心美

今回初めて理事長のお宅にお邪魔しました。お庭が広くて凄かったです。お肉や手作りおにぎりが沢山あり、とても美味しく頂きました。私は昨年の12月から3月までアルバイトとして働き、今年の4月からは正社員になり、もうすぐで半年になります。入職してからずっとコロナウィルスの影響で職員の方たちの顔を見ることがなく、マスク越しでしか会話をすることがなかったため、職員の方々の名前を覚えるのも大変でしたが、今回のBBQではマスクを外して自己紹介をしたり、一人ひとりの顔を見ながら色々な話をすることが出来て、また新たに色々なことを知ることが出来て良かったです。管理職の方々と他部署の方々との距離も縮まったような気がします。ご飯を食べるだけでなくカラオケなどもあり、みんなが笑顔で楽しそう

## 通所リハビリテーション紹介

通所リハビリテーション科 科長 島澤 真一

通所リハビリテーションは、自立した日常生活が送れるように機能の維持向上を図るリハビリテーションを送迎を含めて提供します。日常生活の世話や家族の負担軽減等のための通所介護とは役割が異なります。

にしているのを見て、とても良い職場だと改めて思いました。今回のBBQを通して、職員の皆さんとの仲も深まって、とても良い会になったと思います。皆さんとても明るく優しい方たちで、このような職場で働くことが出来るとても良かったと思います。新人職員のためにこのような会を開いていただきありがとうございます。

当事業所は、リハビリテーションの強化のため、施設基準上は利用者100名に対し1名のところ、理学療法士と作業療法士等を3名配置しています。

い、歩行や生活等が安全に行えるよう歩行補助具の選定や、玄関やトイレ浴室等の手すりの設置等の住宅改修の提案もしています。

利用者の目的を達成するために、利用者を初めケアマネジャーや医師、他の介護サービス事業所の方々と、リハビリテーション会議を行い、歩行のみならず入浴や洗濯、掃除等の日常生活動作を改善し、自立した生活が送れるように計画的にリハビリテーションを提供しています。

利用中の活動として、運動や体操のほか、フレイル予防、口腔機能向上、職員による栄養や嚥下、食中毒やインフルエンザ等の感染予防対策にも取り組んでいます。また、当法人理事長による健康長寿講話や音楽療法、創作活動等楽しみながら参加していただく活動も行っています。

また、定期的に体力測定と口腔栄養スクリーニングを行います。

直近1年間の介護保険の更新の結果、約22%



の方が要介護度の改善、約55%の方が維持となりました。利用者からは「歩きがよくなり、買い物に行けるようになった。」「家で風呂に入れるようになった。」「家事が行いやすくなった。」等、喜びの声を頂いています。生活に不安のある方、活動が少なくなった方、退院後でリハビリテーションを続けた方、筋力や体力低下を感じている方等のご利用をお待ちしています。

負荷への配慮から、食品ロスを減らすことが必要です。私は食品ロスを減らすためにできる対策を2つ考えました。1つ目は、鮮度を意識しすぎないことです。すぐに使い切れる食品は鮮度が低くても賞味期限間近なものを優先し、長期に渡り使用する食品

日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、食品ロスは522万トン。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料支援量の2倍に相当します。また、食品ロスを国民一人当たり換算するとお茶碗約1杯分の食べものが毎日捨てられていることになるのです。「もったいない」と思いませんか。大切な資源の有効活用や環境

ちょっと工夫!

# 減らそう 食品ロス

診療情報管理課  
平早水 朗満



## 腰椎椎間板ヘルニア（MRIを中心に）

放射線科 釘丸 浩司

日常診療で腰椎症の患者さんに多く遭遇致します。年齢、性別を問わず症状も種々多様です。その中でも下肢の痛み、痺れなどが最も多く、その原因の多くは椎間板ヘルニアが考えられます。

主訴や臨床テストなどである程度診断は可能ですが、主にMRI検査の画像が確定診断として行われます。

椎間板ヘルニアは（図1）のようにヘルニアが脊柱管に脱出のみ賞味期限を意識したものを選びます。

2つ目は、家庭の食品の賞味期限を定期的に見返すことです。買い過ぎの予防やいつまで使い切らないといけないかがわかります。また賞味期限内に使いきれない、余った食品は人に譲ったり、寄付する選択肢もあります。今日からできる行動で食品ロスを意識することにより、食べられるはずの食品の廃棄を防ぎ、食品が捨てられる時のもったいなさや、この食品ロスの状況を緩和することに繋がると考えます。

している状態をいいます。そのヘルニアが下肢の神経根を圧迫すると痺れや痛みなどが発症します。治療は保存療法と手術療法がありますが、今もそうですがヘルニアを摘出する手術が多く施行されています。

しかし椎間板ヘルニアの種類によつては、手術しなくても数週間から数カ月で消失するタイプのヘルニアがあることが数年前からいわれてきました。そのタイプのヘルニアは（図2）のB-2とCで、髄核が後縦靭帯を穿破しているタイプです。このヘルニアの診断にはMRI専用造影剤をし、MRIにてヘルニアの種類を鑑別します。

図1

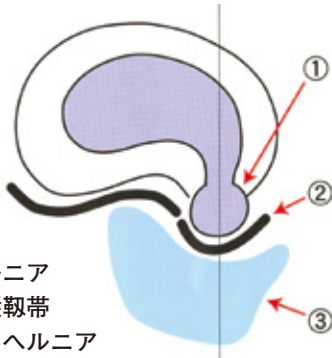


図2

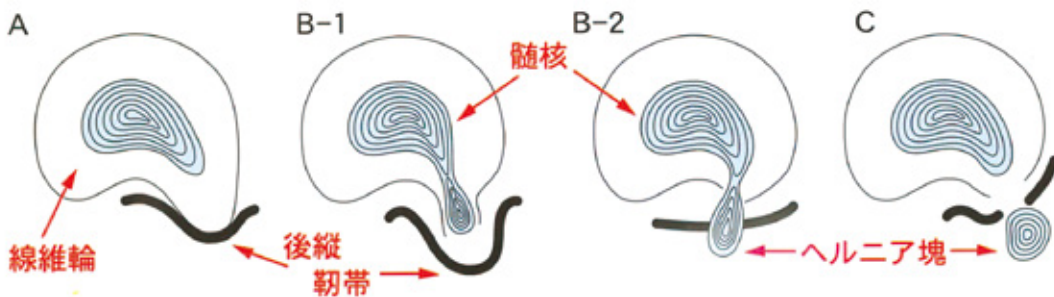


図3



（図3）のMRI画像は、大きなヘルニアが1年2カ月で著しく縮小した症例です。右下肢の激痛・歩行困難で来られましたが、症状は殆どなくなり、改善されました。ヘルニアが縮小

する期限も様々で数ヶ月〜1年以上かかることもあります。また、縮小しないタイプのヘルニアは、手術しなくても治療方法があります。それはX線透視を見ながら、ヘルニアの中に特殊な薬を注入する方法で、その薬が特殊な酵素でヘルニアを縮小させるように作用します。入院も短く負担が非常に少ない検査で、当院でも行っていますので、お気軽に相談されてはどうでしょうか？

# クリニック作業療法 ハンドセラピーについて

リハビリテーション部 副主任 岸本 進太郎



当クリニックでは現在4名の作業療法士が在籍し、医師と連携しながらハンドセラピーを行っております。ハンドセラピーとは、手に損傷や障害を受けた人が、再び「使える手」を獲得するために行うリハビリテーションのことです。近年では、手術方法や手術に用いられる機材の進歩によって術後翌日から患部を動かすリハビリテーションが主流となってきました。そのため、我々療法士に求められる技術や責任も大きくなってきていると感じています。新型コロナウイルスの蔓延によりニュース等でエビデンスという言葉を聞く機会が増えたと思います。作業療法士は医師に比べてこのエビデンス（科学的根拠）に基づいた医療・治療への関心が高く、療法士の経験や感覚的な介入がなされる傾向がありました。そのため、当クリニックでは



これまで手首や指の骨折、腱損傷など外傷後に実施したり、ハビリテーションの妥当性について臨床研究を重ね、学会や論文等で発表してきました。大分県内においてはまだまだハンドセラピーについての認知度は低いと思いますが、県北地域の方々に標準治療として最良のハンドセラピーを安心して受けていただけるよう、今後も努力していきたいと思っております。

薬剤科提供

## 薬のまめ知識 ~湿布の話~ 光接触皮膚炎を防ごう!



日差しが強くなってきました!

前号でも湿布の話をしていただきましたが、毎年この時期から、湿布をお渡しする際に注意喚起することがあります。光接触皮膚炎についてです。

### 光接触皮膚炎とは?

ある物質（薬剤）が接触した皮膚に、日光（紫外線）があたって生じる皮膚炎のこと。症状は、赤く腫れる、ぶつぶつや水ぶくれができる、色素沈着などです。



モーラス。テープL40mgを剥離後、日光(紫外線)にあたった患部

### どうしたら良い?

光接触皮膚炎は、主にケトプロフェンを成分とする外用剤で起こりやすいですが、使用中・使用後の注意を守ることにより防ぐことができます。!(^^)!

**注意 ①** とにかく遮光!  
貼ったところを日光（紫外線）にあてないこと。長袖や長ズボンなどで覆うと良いです。白や薄手のものより、色の濃いものの方が効果的です。  
曇りの日でも注意。油断は禁物です。

**注意 ②** 海水浴や炎天下での作業やスポーツは、起こる危険度MAX。できれば避けたい。

**注意 ③** 医師から指示された部位に貼り、勝手に違う部位に貼らないこと。

**注意 ④** 湿布といえども、気軽に他の人にあげたりしないこと。

**注意 ⑤** 剥がした後も4週間は、同じように注意を続けること。

### もしもなってしまったら?

治療が必要な場合もあるので、速やかに処方医にお知らせください。





## 変形性膝関節症と PRP療法



副院長  
本山 達男

変形性膝関節症に対する新しい保存療法としてPRP療法が注目されています。PRP (plate rich plasma: 多血小板血漿) 療法とは自己血を採取し、遠心分離を行った上澄み液(血小板や血漿が主体)を関節内や腱周囲などに注射し治癒を促す治療で、野球選手の肘の靭帯損傷などで紹介され話題となりました。PRPには様々な成長因子や再生因子が含まれ、抗炎症と組織修復作用を有するとされています。大学病院などで実際に臨床応用が始まりましたが、昨年よりかわしまクリニックでも、同仁が免疫研究所を介し、PRPに準じる治療(リベアニーズ)

が可能となりました。当院で検査、50ccの採血を行い、これを研究所に送り研究所でPRPを更に濃縮、活性化した抽出液が凍結され送られてきて(3週後、1.5ccが2本)、それを解凍後、関節内に注射する治療です。自己の血液の中に治癒促進物質がありそれを利用する治療で、人間の自然治癒能の可能性を感じさせる所が最大の魅力です。自費診療となり、治療費が107,800円(税込み) + 診療費と費用がかかるのが欠点です。しかし、同様の他の治療機関よりもリベアニーズは割安となっております。将来的には医療保険で適応されるようになり、経済的に治療を受けやすくなることを願っています。当院では、この新しい治療を変形性膝関節症に対し、積極的に行っていきたいと考えています。

## Ohana ～お花～

- 🌸 花の名前：胡蝶蘭
- 🌸 時期：環境が良ければ3月～7月位まで
- 🌸 花言葉：胡蝶蘭全般は「幸福が飛んでくる」  
蝶が舞っているような姿からそういわれています。
- 🌸 色によっても様々な花言葉があります。  
白：「純潔」「純粋」  
ピンク：「あなたを愛しています」など…



植物のパワーで、患者様や職員の癒しの空間になればと思います。 回復期リハビリテーション病棟 師長 酒井 洋子  
見て喜んでもらえれば、花たちも嬉しいのではないのでしょうか。

## “こだわり抜く筋力増強運動”への執筆

リハビリテーション部 副主任 辛嶋 良介



この度、肩関節周囲炎に対する理学療法の項を分担する機会を頂きました。毎年約1万人もの理学療法士が誕生しており、本書はそのような経験年数の若い理学療法士や学生をターゲットとして編集されています。昨今はネットに情報が溢れ、何でも簡単に調べることができる一方、それら情報の取捨選択は難しいものです。本書では各項に理学療法における根拠や臨床での工夫などが詳細に記述されています。多くの方の手に取っていただき、少しでもお役立ていただければ幸いです。



「橈骨遠位端骨折からリハビリまで」

白石作業療法士

2023.5.15

「症例検討」

永田・阿部作業療法士

「虫様筋について」

川端作業療法士

### 川島肩をカタろう会

2023.3.27

「Strain Distribution of Rotator Cuff and Tear propagation」

羽田リハビリテーション部主任

2023.4.24

「上腕骨近位端骨折について」

吉田理学療法士

2023.5.29

「変形性肩関節症について」

豊田理学療法士

### 膝関節勉強会

2023.3.8

「TKA術後の歩行補助具」

馬場理学療法士

2023.4.12

「ACLのプロトコールについて」

辛嶋リハビリテーション部副主任/橋本裕司理学療法士

2023.5.10

「変形性膝関節症の保存治療～股関節外転筋に着目して～」

川野理学療法士

### 看護部勉強会

2023.3.11

新人看護師後期学習会

2023.3.16

インスリンの安全使用について

2023.3.29

実習指導者講習会を受講しての学び

2023.4.6～4.12

新人集合研修

## 院外発表・講演

2023.2.18

令和4年度宮崎県医師会病院部会・医療法人部会合同  
医療従事者研修会 (宮崎県)

「医学史からみた新型コロナパンデミック-温故創新-」  
川島理事長講演

2023.4.14

大分大学医学部 令和5年度「健康科学概論」(大分県)  
「解剖学にみる中津藩蘭学とパイオニア精神-前野良沢  
から田原淳へ」

川島理事長講義

2023.4.18

令和5年度 短期専門講習(法定研修) (大分県)

「介護現場で求められる接遇マナー」  
沖本介護老人保健施設のみ副施設長講演

2023.4.22

第37回マンダラゲの会 (中津市)

「医学史から見たコロナパンデミックの行方」

川島理事長講演

2023.4.23～24

第35回日本ハンドセラピィ学会学術集会 (東京都)

「自動車運転に必要な肘・前腕の関節可動域の推定」

岸本リハビリテーション部副主任発表

## 院内勉強会

### モーニングセミナー

2023.3.17

「一年間を振り返って」

太田医師

2023.4.21

「上腕骨近位端骨折」

佐々木診療部長

2023.5.26

「腱鞘炎+α」

後藤診療部長

### カワシマハンドセラピィ研究会

2023.4.17

「症例検討」

奥貞・榎木作業療法士

2023.3.7

ワクチン接種後の肩の痛みと機能障害

川島院長

2023.3.14

肩腱板全層断裂の治療における肩峰形成術を施行したのとしなかったのにおける関節鏡視下腱板修復術

佐々木診療部長

2023.4.4

小児由来のヒトACL線維芽細胞は、成人由来のものに比べ、血小板濃縮液に対する生体外での反応が強い

本山副院長

2023.4.11

肘関節脱臼後の早期関節使用制限 可動域制限と外傷後関節拘縮の病理組織

後藤診療副部長

2023.4.25

英国での小児上腕骨顆上骨折の治療

古江副院長

2023.5.2

COVID-19患者における自己免疫疾患のリスク：後ろ向きコホート研究

川島院長

2023.5.9

転位のない大腿骨頸部骨折の内固定後の関節形成術へ転換

佐々木診療部長

2023.5.23

手根管症候群手術に関わる尺骨神経運動枝の解剖学的研究（屍体研究）

後藤診療副部長

2023.5.30

急性アキレス腱損傷後の最初の3週間でギプス固定をした場合とアキレス腱装具を使用した場合で1年後の治療成績に差がなかった デンマークのアキレス腱データベース上の1304人のデータの観察研究

須賀医師

## 論文（共同含）・誌上発表

- 岸本進太郎、他：手指伸筋腱ZoneIV、V断裂縫合術後のIP関節をフリーとしたスプリント療法，日本ハンドセラピィ学会誌，15(21)：56-59，2023
- 川島真人：大分県立先哲資料館編「田原淳」「田原淳【普及版】」「田原淳資料集」，日本医史学雑誌，69(1)：123～126，2023
- 辛嶋良介：運動器障害に対する筋力増強運動-肩関節周囲炎，こだわり抜く筋力増強運動-，文光堂，70～77，2023
- 山口 喬 他：蜂窩織炎に対する高気圧酸素治療の有効性の検討，九州高気圧環境医学会誌，23，2-8，2023
- 川島真人：三津同盟と中津蘭学・洋学，「洋学」第30号洋学史学会研究年報2023，193～197，2023
- Takuya Ibara, Kiyotaka Hada, Ryosuke Karashima, Mahito Kawashima, Masaya Anan: Correlation between rotational moments of the knee and other joints during gait, including the free moment of patients with a medial meniscus tear, Acta Bioen Biomech, 24(4):119 - 126, 2022

# 脊椎脊髄センターが開設しました

なかなかよくなならない長引く腰痛や神経痛、手足の痺れ、  
いろいろな治療を受けても改善されずお困りの方はいらっしゃいませんか。



脊椎脊髄センター長  
吉田裕俊



## 経歴

- 1985年 東京医科歯科大学整形外科入局
- 1992年 九段坂病院
- 1994年 諏訪中央病院 主任医長
- 1998年 済生会川口総合病院医長
- 2001年 東京医科歯科大学整形外科臨床講師
- 2004年 東京医科歯科大学整形外科臨床助教授
- 2012年 済生会川口総合病院主任部長、  
東京医科歯科大学整形外科非常勤講師
- 2013年 福岡東医療センター部長

脊椎を専門にして34年間。東京医科歯科大学整形外科に入局以降、脊椎脊髄外科を専門に大学や九段坂病院、済生会川口総合病院等で研修を積んでまいりました。

その間、2000年にはドイツの世界的に有名な脊椎外科医Harms教授のもとで、当時日本ではまだ珍しかった脊椎変形矯正手術を学び、帰国後の15年間を済生会川口総合病院において脊椎医療を牽引するとともに、手術指導と教育に携わってまいりました。

頸部疾患や脊椎椎体骨折、椎間板ヘルニアや狭窄症など、日進月歩の医療の世界ではさまざまな治療を選択できるようにになりました。

患者さまお一人ひとりの生活習慣、生活の質の向上を鑑み、正確な診断から最善の治療を考えます。

痛みの感じ方や程度は人それぞれですが、年齢やいつもの痛みだからと我慢したり、あきらめず、まずは一度ご相談ください。

今までの経験を活かし、質の高い適切な診断と脊椎疾患への十分な理解を得られるよう、わかりやすい説明を心がけます。

## 編集後記

今年もまた暑い季節がやって参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。暑い中ではもちろん、冷房の効いた中でも脱水症になる事がありますので、水分をしっかりと摂取し、熱中症予防をさせていただきます。  
さて、ラ・サントは夏号より新メンバーでの作成となりました。皆様のお役に立てる情報をお届けできるよう、広報委員一同取り組んで参ります。また、皆様からのご意見や投稿もお待ちしております。今期一年間、よろしくお願ひ申し上げます。

## 【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

### 〔患者様の権利〕

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7. プライバシーや個人情報保護される権利があります。
8. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9. 安全を確保される権利があります。

### 〔患者様の責務〕

1. 医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2. 他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4. 円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5. 早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6. 診療費の遅滞ない支払い